

本日の流れ

- ① 専攻長挨拶 (小倉 専攻長)
- ② 埼玉大学教職大学院の概要 (小倉 専攻長)
- ③ 教職大学院の学修内容について (小田倉 先生)
- ④ 実地研究とは (岡本 先生)
- ⑤ 大学院入試情報について (葉石 先生)
- ⑥ 現役院生の言葉 (教職大学院 1 年 棚澤飛鳥さん)
(教職大学院 2 年 宮武昌杜さん)
- ⑦ 質疑応答



① 専攻長挨拶

教職大学院では、学卒院生と現職院生が、共に学びます

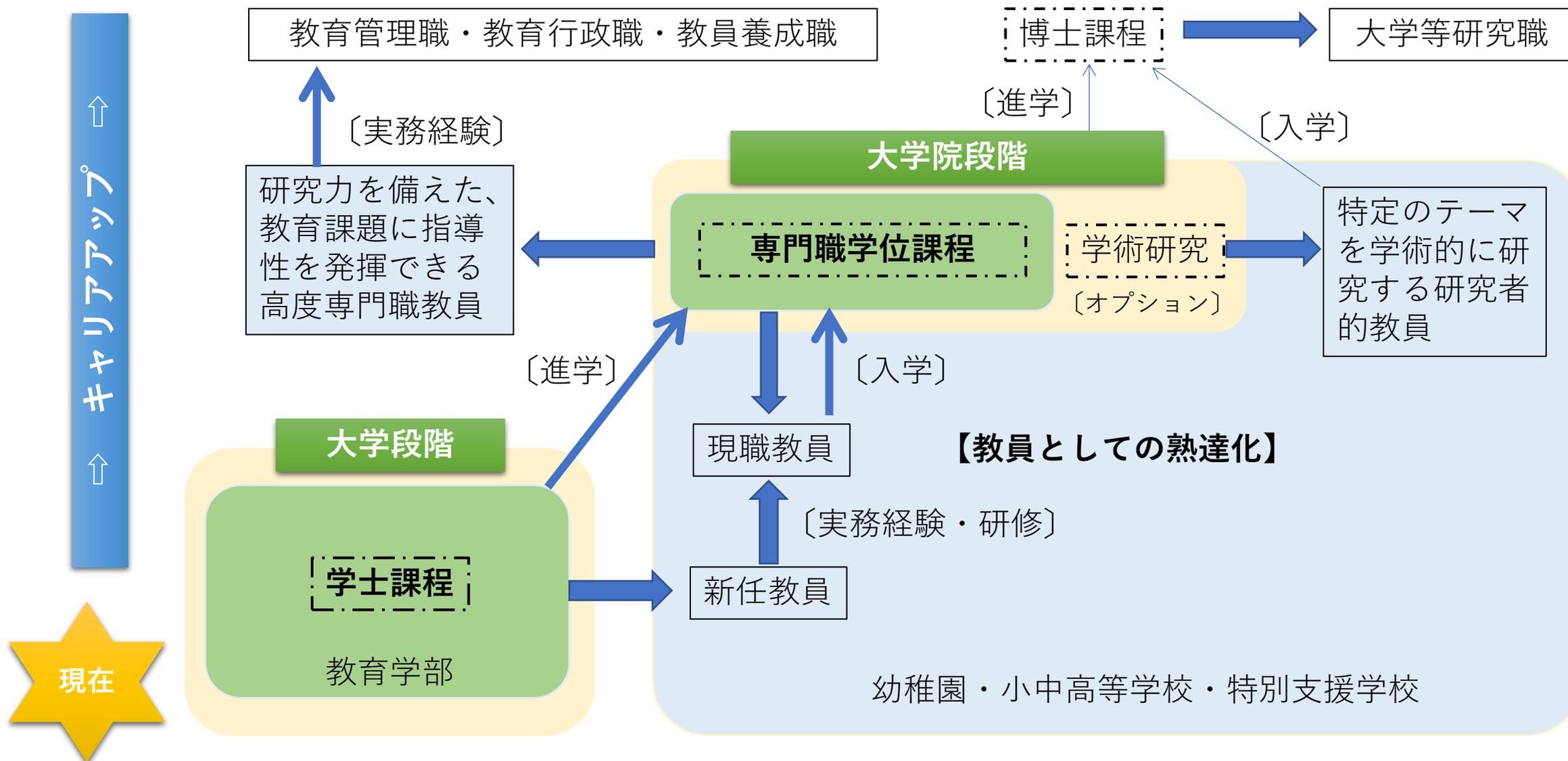
院生は、様々な大学教員の専門性を総合し、学校の協力を得て、自身の課題を探究します

修了生は、埼玉県内外の所属校や教育委員会等で活躍しています

ぜひ当大学院での学びを活かして、教員としての人生をより豊かにしてください



埼玉大学教職大学院を介した高度専門職者および研究職者へのキャリアアップ



教職大学院進学で
教師としての人生を
より豊かなものに



奨学金全額返還免除制度

教職大学院を3月に修了し4月から正規の教員に就く方を対象に、教職大学院で2年間受給できる奨学金が全額返還免除となります。

学費や生活費を稼ぐためにアルバイトする時間と労力を大きく減らして、学業を続けられます。保護者にも新たな経済的負担をかけずに進学することが可能です。

ぜひ、この新しい制度を活用して、一人でも多くの方が高度な実践力を身に付けた教員となり、学校教育を牽引して欲しいと願います。

免除対象者の条件など詳しい制度内容は
文部科学省の公式ページにて

文部科学省 奨学金返還支援

検索



②埼玉大学教職大学院の概要

○入学定員 52名

○入学者数 R7 学卒院生 42名 現職院生 13名

R6 学卒院生 40名 現職院生 11名

→学卒入学者のうち、3人に1人は他大学出身の学生です。

○教員数 88名

○学費

入学料 282,000円(予定額)

授業料 267,900円[前期分(予定額)]

535,800円[年額(予定額)]

※上記費用の他、保険加入などの費用がかかります。

○取得できる学位 教職修士(専門職)



③教職大学院の学修内容について

埼玉大学教職大学院ではどのようなことが学べるの？

埼玉大学教職大学院ではどのようなことが研究できるの？

学卒と現職教員や他のサブプログラムとの交流、勉強の機会はあるの？



研究科カリキュラム委員会

本研究科の特色

三大強化 ポイント

協働して取り組む**共同探究力**の育成

新しい時代の変化にも対応した
高度な教材開発力・教科指導力の育成

実践的な**省察**の充実

1. 協働して取り組む共同探究力の育成

- 複雑化し多様化する学校現場の問題の解決のために発揮される
- 組織として教育活動に取り組む体制づくりに積極的に参画し、自らの専門性を発揮しながら協働して問題解決を図る資質・能力を育成 チーム学校の体制づくりの中核を担う教員
- 学校内外の他職種との協働（養護教諭、スクール・カウンセラーなどの心理領域の職種、スクール・ソーシャルワーカーなどの福祉領域の職種）、他校種連携（幼児教育と小学校、インクルーシブ教育など）、学校外の関連専門機関や、地域の専門職・専門的人材との連携が求められる中、それぞれとつながりながら問題を解決することができる教師
- 「現代的・地域的教育課題の共同探求（ジョイント・リサーチ）」の設置

2. 高度な教材開発力・教科指導力の育成

- 高水準の教科特有の知識・技能の習得や探究を基盤としながら、自分の授業実践の向上を可能にする教材研究・授業研究の力量を形成
- 「主体的・対話的で深い学び」「社会に開かれた教育課程」など、授業改善や新しい教科領域にまたがる教育内容の開発、カリキュラム・マネジメントを推進する協働的な教員集団の中核としてその力量を発揮できる教員
- 教科横断・分野交流の活動を取り入れた教科教育に関する共通科目の設定を特色としている。自分の専門教科だけでなく他の教科のトピックや課題に触れることで、新しい教育内容の開発につながる高度な教科教育力の育成を行う

3. 教員の実践的力量的の向上に欠かせない 実践的な省察の充実

- 複雑な要素が絡む学校現場の問題状況に対し、学校教育の当事者の中核として**問題解決を図る**ことのできる教員
- 現場の閉塞状況を打破するために、問題が生じている固有の子どもや教室の中で特定の文脈や状況を適切に読み解く省察の在り方が問題解決の成否を握っている
- 「**理論と実践の往還**」の過程で、それぞれを架橋していくもの
- 「**実地研究 I・II**」の充実とその振り返りを含む「**学校と教職の課題探求（グループ・カンファレンス）**」の強化

理論と実践の融合をより可能とする方策

- 研究者教員と実務家教員、複数の教員による**協働の授業**
- 現職院生と学卒院生の**共同学習**
- グループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等、**多様な授業形態**
- 附属学校園も含めた学校教育現場のより一層の活用
- この他の連携・協働のあり方の追求（学校内にとどまらず、地域、学校外の専門機関との連携も視野に入れた場合、他職種との協働も）

★共通科目 < 5領域, 16単位 >

* 印は全員必修 他はSP指定の必修科目の例

科目区分 (領域)	授業科目名
教育課程の編成・実施に関する領域	教育課程の課題探求* 子ども共育の理論と実践 教科の教育課程構成論
教科等の実践的な指導方法に関する領域	教科指導の課題探求* 特別支援教育の課題探求 教科指導の発展・応用
生徒指導、教育相談に関する領域	生徒指導・教育相談の課題探求* 特別支援教育コーディネータ演習 子供の発育発達と保健室における養護教諭の実践
学級経営、学校経営に関する領域	教育経営の課題探求* 学校構想の理論と実践 現代の健康問題と学校保健の実践的課題
学校教育と教員の在り方に関する領域	学校と教職の課題探求* 学校課題改善演習

小計 (14科目) 「学校と教職の課題探求」のみ通年4単位、他は半期2単位

★共通科目の特色

- 「学校と教職の課題探求」のみ、通年開講の4単位、授業展開のなかで講義・講義と演習に加えて、実地研究での学校の経験に基づいた省察と対話を含む「グループ・カンファレンス」を取り入れて授業を構成する。テーマに沿った専門性を持つ大学教員とともに、定期的に実地研究の振り返りを行う。
- 他の4つの必修科目（*印2単位）は、ターム制を利用し2コマ連続の1/4学期、を2クラス設定
 - …講義と演習を連続した時間設定で効果的に実施するため

★課題研究Ⅰ・Ⅱ

- **課題研究Ⅰ**は、学校現場での教育実践に触れることを通して、教育実践に関する課題意識を明確にし、教育実践に係わる基礎的事項の学修を進め、教職および教育実践力の高度化に資する研究を行うことを目的とする。
- **課題研究Ⅱ**は、実地研究やその他の教育実践への関与により、教育実践についての課題意識に即した探究を継続し、指導教員との協議のもと、定期的にリフレクションを行いながら、その研究成果を**課題研究報告書**にまとめる。
- 課題研究のテーマは、院生個々の興味や専門性を生かして設定し、主・副の**複数の指導教員が指導する**体制をとる。
- 2月に開催される教育実践フォーラムで**課題研究発表会**を行う。

★選択科目のうち、全体にかかる科目

- 「現代的・地域的教育課題の共同探求（ジョイント・リサーチ）」

教育に関わる現代的かつ横断的な問題、埼玉県という地域に関わる問題に関して、多様なスタッフや院生が、課題設定から成果公表の過程を協働しグループでの研究を行う。学校を中心としたいくつかのフィールドを行き来しながら、問題を多角的に検討する内容とする。

- 「教育実践総合演習」

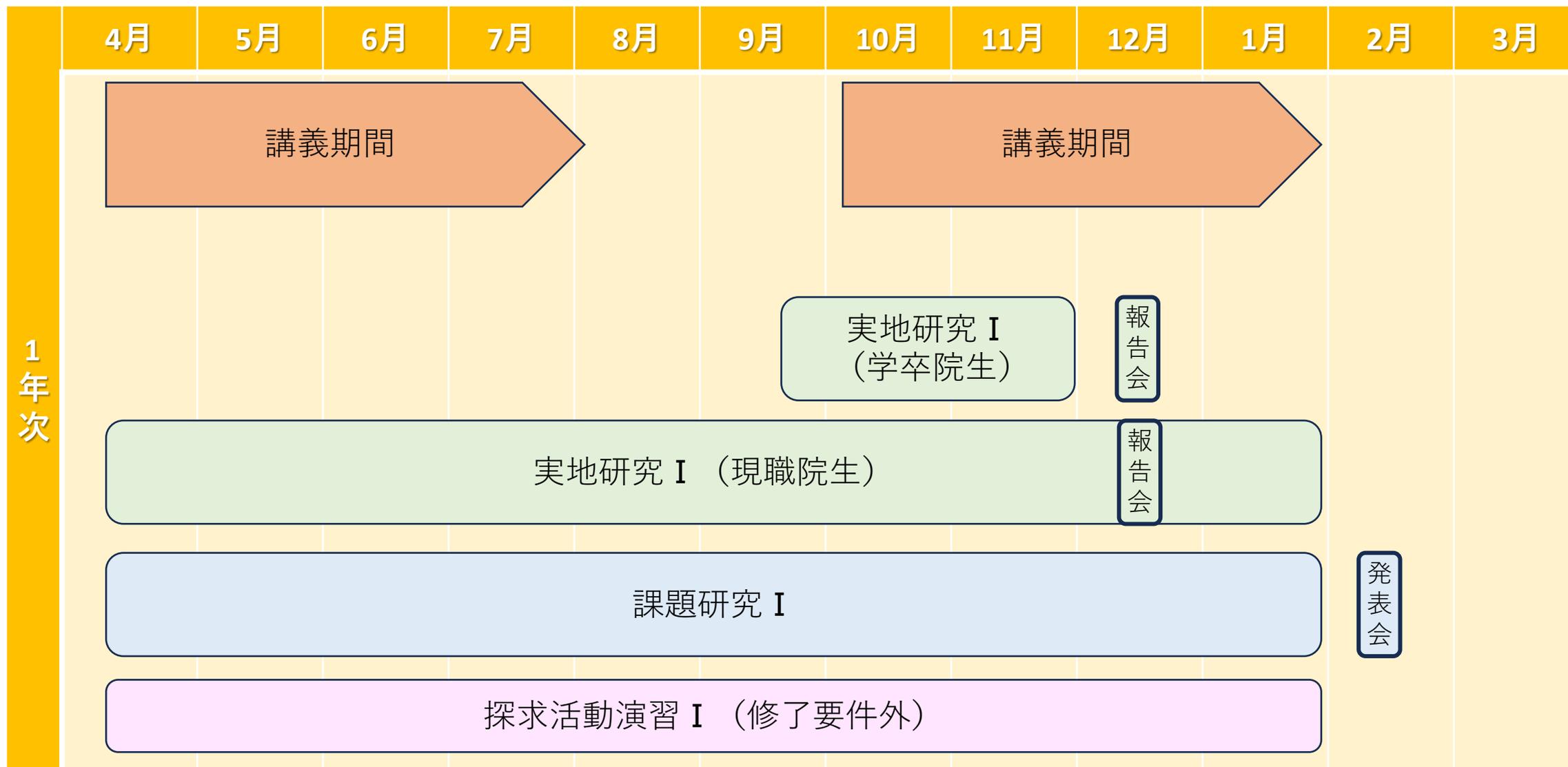
学校現場で生起する様々な課題に対応し解決する方策を総合的・実践的に探究する演習（対話・ワークショップ）形式の授業である。

- 「探求活動演習Ⅰ・Ⅱ」（修了要件外）

将来博士課程への進学を志望しているもの対象。

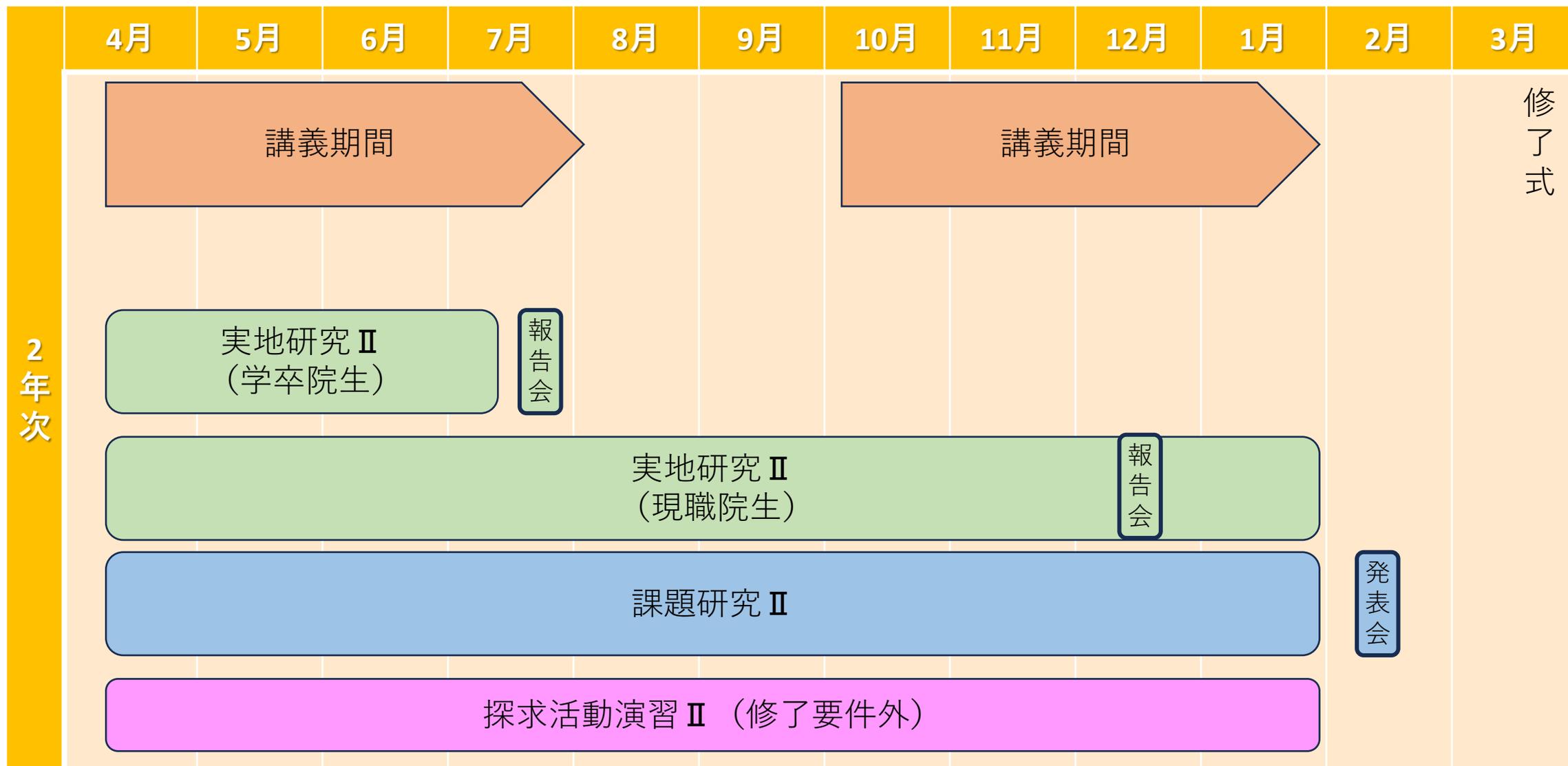
院生が強い興味関心を持つ特定の分野について、それを専門とする教員の指導を直接受けながら個人での探究活動を行う。

★履修スケジュール(学卒・現職2年履修院生の1年次)

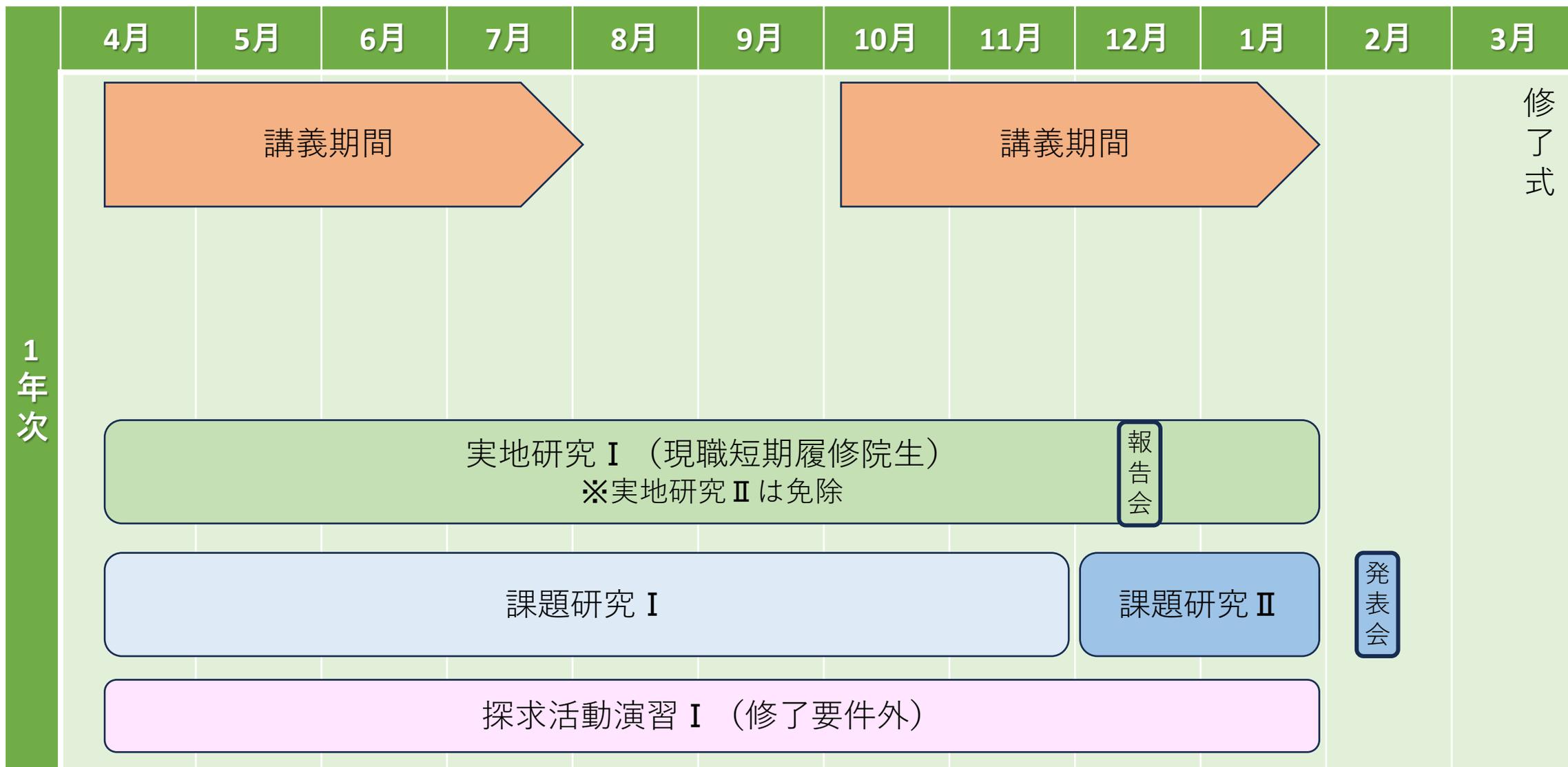


1年次

★履修スケジュール(学卒・現職2年履修院生の2年次)



★履修スケジュール(現職短期履修院生)



学卒院生の履修登録例(1年次、子ども共育SP)

第1,2	月	火	水	木	金	第3,4	月	火	水	木	金
1限	教育経営の課題探求(第1)					1限			言語文化系教育の理論と実践B(英語)	実地研究 I	実地研究 I
2限	教科指導の課題探求(第2)	言語文化系教育の授業内容探求C(英語)				2限		子供の発達と教育相談の課題探求	学級づくり論	実地研究 I	実地研究 I
3限	子ども共育の理論と実践	課題研究	ジェンダー/セクシュアリティと社会			3限		言語文化系教育の教材研究と実践C(英語)		実地研究 I	実地研究 I
4限	子ども共育の理論と実践	子ども認識の思想と構造	生徒指導・教育相談の課題探求(第1)	異文化間教育論		4限	学校と教職の課題探求	子ども支援の実践と制度	言語文化系教育の授業内容探求B(国語)	実地研究 I	実地研究 I
5限	学校と教職の課題探求		教育課程の課題探求(第2)			5限				実地研究 I	実地研究 I

(他に集中講義「保育内容と指導の課題探求」(必修) 「子育て支援開発探求」(選択必修))

学卒院生の履修登録例(1年次、芸術系教育SP(図画工作・美術))

第1,2	月	火	水	木	金	第3,4	月	火	水	木	金
1限	【第1】 (1,2限連続) 教育経営の課題探求	教科の教育課程構成論	教科指導の発展・応用			1限				実地研究 I	実地研究 I
2限	【第2】 教科指導の課題探求	心理・学習評価演習	芸術系教育の授業内容探求C(図工・美術)			2限		学校と児童生徒理解の心理学	芸術系教育の授業内容探求D(図工・美術)	実地研究 I	実地研究 I
3限	インクルーシブ教育演習	課題研究(ゼミの先生と相談して時間設定)				3限		課題研究(ゼミの先生と相談して時間設定)		実地研究 I	実地研究 I
4限	芸術系教育の理論と実践B(図工・美術)	総合・道徳開発演習	【第1】 (4,5限連続) 生徒指導・教育相談の課題探求			4限		芸術系教育の教材研究と実践C(図工・美術)	学校臨床心理学実践演習	実地研究 I	実地研究 I
5限	学校と教職の課題探求	【TA】 デザイン基礎実技I(映像メディア表現を含む。)	【第2】 (4,5限連続) 教育課程の課題探求			5限	学校と教職の課題探求	【TA】 デザイン基礎実技I(映像メディア表現を含む。)	芸術系教育の教材研究と実践D(図工・美術)	実地研究 I	実地研究 I

学卒院生の履修登録例(2年前期, 生活創造系教育SP(技術))

第1,2	月	火	水	木	金	第3,4	月	火	水	木	金
1限				実地研究Ⅱ	実地研究Ⅱ	1限					
2限				実地研究Ⅱ	実地研究Ⅱ	2限					
3限				実地研究Ⅱ	実地研究Ⅱ	3限					
4限				実地研究Ⅱ	実地研究Ⅱ	4限					
5限		課題研究		実地研究Ⅱ	実地研究Ⅱ	5限					

現職院生の履修登録例(短期履修、社会系教育SP)

第1,2	月	火	水	木	金	第3,4	月	火	水	木	金
1限	教科指導の課題探求(第1)	教科の教育課程構成論	教科指導の発展・応用			1限	初等社会科概説(学部)	体育・保健体育科教育の教材研究と実践B	教育方法・課程論(学部)		
2限	↓教育経営の課題探求(第2)	心理・学習評価演習				2限		道徳教育論(学部)	社会科教育の教材研究と実践A		
3限		初等国語科指導法(学部)	社会科教育の理論と実践A	(課題研究)		3限	社会科教育の教材研究と実践B	社会科教育の授業内容探求	社会科教育の理論と実践B	(課題研究)	
4限	特別活動論(学部)	教育心理学概説(学部)	教育課程の課題探求(第1)			4限	現代的・地域的教育課題の共同探求				
5限	学校と教職の課題探究		↓生徒指導・教育相談の課題探求(第2)			5限	学校と教職の課題探究				

④ 実地研究とは

大学で教育実習に行ったけどもう一度教育実習に行くの？

実習先はどのようなところがあるの？

実地研究ってどんなことをするの？



実地研究の目的

- 学校の教育活動全体について総合的に体験し、教育実践上の課題に対するより効果的な思考法（省察）と対応力を身につけること

期待される成果	学校組織の一員としての実践力の向上 研究活動の深化、まとめ
----------------	--

実地研究 I

科目名（時期）	実習校での実践研究活動	大学院での研究活動
実地研究 I (1年次後期)	期間 週2日木・金×8週の計16日間 ねらい 学校教育における実践を深く理解することを目標とし、実地研究校で実習を行う。	課題研究 I 児童生徒の実態及び発達の理解と学校教育の全体構造とを関連づける。

実地研究Ⅱ

科目名（時期）	実習校での実践研究活動	大学院での研究活動
実地研究Ⅱ (2年次前期)	期間：週2日木・金×12週、 または、週4日火・水・木・金 ×6週の計24日間 ねらい 実地研究Ⅰにおける気づきをより深める形で学校の様々な教育場面における多様な教育実践に臨床的に関わることを意図する。	課題研究Ⅱ 実践の成果をもとに、各自設定した研究テーマの深化につなげる。

「実地研究」と「教育実習」の違い

教育実習

- 教員免許状の取得を主なねらいとする実習。
- 授業の行い方、指導案の作成の仕方など授業を中心とした指導を学校の先生に依頼。

実地研究

- 既に教員免許を取得している院生。
- 実地研究校における教育活動全般について総合的に体験。学校現場で起こる様々な課題・問題について主体的に解決するための方策を研究する高度な実務実習。
- 院生は、理想とする教師像を明確にし、その教師像に近づくことができるよう、授業や教育活動に参加。
- 院生も学校を支えていく教員の一員としての意識をもって実習。

実地研究ⅠとⅡの違い

- 実地研究Ⅱでは、実地研究Ⅰやその後の研究活動をふまえ、学校教育における教育実践研究を実施できるように12（6）週にわたる24日間の実習を設定。
- 実地研究Ⅱは、課題研究Ⅱとの往還を重視し、研究テーマの深化につながる実践に努めるとともに、実地研究Ⅰにおける気づきをより深める形で学校の様々な教育場面における多様な教育実践に臨床的に関わることを意図。
- 以上の実地研究Ⅰ・Ⅱを通して、学校組織の一員として、実践力を高めることを目指す。

※課題研究のための実践活動を主たる目的としていません

⑤ 大学院入試情報について



埼玉大学マスコットキャラクター メリンちゃん

研究科アドミッション委員会

1. 入試の種類

募集人員：52名

一般選抜

現職教員等特別選抜

指定校推薦特別選抜

学部内推薦特別選抜

2. 選抜区分ごとの要件

(1) 共通の出願資格

教育職員免許法による幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教諭若しくは養護教諭の普通免許状（専修または1種）を有する者及び取得予定の者で、次の各号のいずれかに該当する者を対象とします。

- ① 学校教育法（昭和22年法律第26号）第83条第1項に定める大学を卒業した者及び令和8年3月までに卒業見込みの者
- ② 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された者及び令和8年3月までに授与される見込みの者
- ③ 外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び令和8年3月までに修了見込みの者
- ④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び令和8年3月までに修了見込みの者
- ⑤ 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別にしてしているものの当該課程を修了した者及び令和8年3月までに修了見込みの者

2. 選抜区分ごとの要件

(1) 共通の出願資格

- ⑥ 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び令和8年3月までに授与される見込みの者
- ⑦ 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び令和8年3月までに修了見込みの者
- ⑧ 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号参照）
- ⑨ 大学に3年以上在学し、所定の単位を優れた成績をもって修得したと本研究科が認めた者
- ⑩ 外国において学校教育における15年の課程を修了し、所定の単位を優れた成績をもって修得したと本研究科が認めた者

2. 選抜区分ごとの要件

(1) 共通の出願資格

- ①外国の大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了し、所定の単位を優れた成績をもって修得したと本研究科が認めた者
- ②我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者であって、所定の単位を優れた成績をもって修得したと本研究科が認めたもの
- ③学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本研究科において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
- ④本研究科において、個別の出願資格審査により大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達したものの及び令和8年3月31日までに22歳に達するもの

(2) 選抜区分ごとの出願資格

一般選抜

「2 出願資格」における「(1)各選抜区分共通の出願資格」のうち
のいずれかに該当する者。大学新卒者、社会人等。

(注) 出願資格⑭により出願しようとする者は、事前に個別の出願資格審査を受けなければならないので、9頁の「5 出願資格(1)の⑭により出願する者の資格審査について」により申請書類の提出が必要です。

現職教員等特別選抜

「2 出願資格」における「(1)各選抜区分共通の出願資格」のうちのいずれかに該当し、かつ以下の出願資格に該当する者。

初等中等教育において累計5年以上（令和8年4月1日の時点）の教職経験※1を有し、在職のまま※2教育学研究科に入学可能な者。

- ① 学校教育法第1条に規定する学校の教員
- ② 教育公務員特例法第2条に規定する教育公務員

※1 入学時点（令和8年4月1日現在）において、教育委員会等に勤務した期間を含め、勤務形態が常勤または常勤の職員と同様である臨時任用の職にあった期間。（1ヶ月未満の期間は1ヶ月に切り上げて算出。休職した期間は除く。5年未満の現職教員は、一般選抜で受験することになる。）

※2 在職のままとは、身分を保有しつつも職務に従事しない状態。大学院修業休業制度等により休業中（予定）の者を含む。

（注）14頁「V 大学院特例制度」の「2 短期履修制度」の記載内容を必ず確認してください。

指定校推薦特別選抜

指定校推薦特別選抜は、埼玉大学教育学部からの指定を受けている大学からの推薦を受けた者。

(注) 第2期指定校推薦特別選抜において、公立学校教員採用選考試験最終合格者は、筆記試験が免除となります。

学部内推薦特別選抜

埼玉大学教育学部に在籍する4年次生で、事前審査で、特別選抜の対象として認められた者。

《推薦対象者》

- ① 将来、教職（保育士含む）に就く強い意志のある者
- ② 教員（保育士含む）としての適性を備えている者
- ③ 本学教育学部において学業成績の優秀な者
- ④ 令和8年3月に卒業見込である者
- ⑤ 教育学研究科に合格した場合に入学を確約できる者

3. 学生募集日程

(1) 入学願書等出願期間

第1期	令和7年7月18日（金）～7月24日（木）
第2期	令和7年10月24日（金）～10月30日（木）

出願は郵送のみとし（期間内必着）、窓口では一切受け付けません。 郵送に際しては必ず簡易書留郵便とし、出願書類提出用封筒〔市販の角形2号封筒（24 cm×33.2 cm）〕に書類一式を封入したうえで、封筒の表に「教育学研究科入学志願書類在中」と朱書してください。

《出願書類送付先》

〒338- 8570 埼玉県さいたま市桜区下大久保255 埼玉大学教育学部係

(2)事前審査受付期間

第1期	令和7年6月25日（水）～7月1日（火）
第2期	令和7年10月1日（水）～10月7日（火）

出願を予定している者は、出願に先立って教育学部各専修内で審査を受ける必要があります（事前審査）、事前審査で、特別選抜の対象として認められた者のみ、特別選抜での受験が許可されます。出願を予定している者は、下記「出願の手順」を参照し、受付期間内に事前審査の出願を行ってください。

《出願の手順》

- ① 出願を予定している者は、指導教員等に申し出た上で「推薦承諾書」の記入を依頼します。
- ② 事前審査書類提出用封筒〔市販の角形2号封筒（24 cm×33.2cm）〕へ書類一式を封入したうえで、封筒の表に「教育学研究科学部内推薦特別選抜事前審査書類 在中」と朱書し、事前審査受付期間内（必着）に埼玉大学教育学部係宛に簡易書留郵便で郵送してください。出願は郵送のみとし、窓口での提出は一切受け付けません。

事前審査提出書類

書類等の名称	摘 要
研究計画書	本研究科所定の用紙 パソコン等で作成しプリントアウトした文書を貼りつけても構いません。 ただし、「研究計画概要」の枠内に収まるよう留意してください。裏面を使用することはできません。
成績証明書	埼玉大学教育学部長が作成したもの（厳封不要）。
推薦承諾書	本研究科所定の用紙

- ・事前審査の結果を本学CAMPUSSQUARE掲示板にてお知らせします。審査の結果、特別選抜の対象として認められた者は、入学願書等出願期間内に必要書類を郵送で出願してください。事前審査受付の際に提出した書類を再提出する必要はありません。
- ・本事前審査は、審査の結果、特別選抜の対象として認められなかった者について、一般選抜への出願を制限するものではありません。

4. 試験日時等

(1) 試験日

第1期	令和7年9月13日（土）
第2期	令和7年11月29日（土）

(2) 試験場所

埼玉大学教育学部（埼玉県さいたま市桜区下大久保255）

(3)配点

pp.5-7

	筆記試験等	口述試験	合計
一般選抜	200	100	300
現職教員等特別選抜		200	200
指定校推薦特別選抜	200	100	300
指定校推薦特別選抜 第2期公立学校教員採用選考最終合格者		200	200
学部内推薦特別選抜		200	200

(4) 試験時間

一般選抜

指定校推薦特別選抜

実施単位			試験科目	
プログラム	サブプログラム	教科等	筆記試験等 (教職に関する科目、専門科目)	口述試験
総合教育高度化プログラム	学校構想サブプログラム		10:00~12:00	13:00~
	特別支援教育サブプログラム			
	学校保健サブプログラム			
	子ども共育サブプログラム	教育学 幼児教育		
教科教育高度化プログラム	言語文化系教育サブプログラム	国語 英語	10:00~12:00	13:00~
	社会系教育サブプログラム			
	自然科学系教育サブプログラム	算数・数学 理科	10:00~12:30	13:30~
	芸術系教育サブプログラム	音楽 図画工作・美術		
	身体文化系教育サブプログラム		10:00~12:00	13:00~
	生活創造系教育サブプログラム	技術 家庭		

現職教員等特別選抜

学部内推薦特別選抜

指定校推薦特別選抜

実施単位			試験科目
プログラム	サブプログラム	教科等	口述試験
総合教育高度化プログラム	学校構想サブプログラム		13:00~
	特別支援教育サブプログラム		
	学校保健サブプログラム		
	子ども共育サブプログラム	教育学	
幼児教育			
教科教育高度化プログラム	言語文化系教育サブプログラム	国語	
		英語	
	社会系教育サブプログラム		
	自然科学系教育サブプログラム	算数・数学	
		理科	
	芸術系教育サブプログラム	音楽	13:30~
		図画工作・美術	13:00~
	身体文化系教育サブプログラム		
生活創造系教育サブプログラム	技術		
	家庭		

第2期のみ
公立学校教員採用選
考試験最終合格者

5. 受験科目等

p.11-13

1. 筆記試験のうち、「教職に関する科目」は「現代の学校と教職をめぐる諸課題についての問題関心や理解」、あるいは「教職に関する意識や教育実践・教育上の課題に対する考え方」を問います。
2. 筆記試験のうち、「専門科目」は「サブプログラムに関する専門領域、教科教育学や教科内容に関する領域の知識や理解度、技能」を問います。
3. 口述試験は、①「現代の学校と教職をめぐる諸課題についての問題関心や理解」、あるいは「教職に関する意識や教育実践・教育上の問題の課題に対する考え方」、②「サブプログラムに関する専門領域、教科教育学や教科内容に関する領域の知識や理解度、技能」を問います。
4. 実技試験は、芸術系教育サブプログラム（音楽及び図画工作・美術）の一部の科目で課します。
5. 課された試験科目のすべてを受験しなかった場合は、失格となります。

各選抜区分の受験科目等については、pp.11-13を参照ください。

6. 過去の入試問題の閲覧

過去5年間で筆記試験が実施されたサブプログラムの入学試験問題のみ閲覧することができます。郵送は取り扱っておりません。
「口述試験」についての過去問題はありません。

①埼玉大学大学院教育学研究科ホームページでの閲覧

<https://www.saitama-u.ac.jp/edu/grad/master/entrance/past/>

※閲覧にはフォームでの申請が必要です。

②教育学部係窓口での閲覧

閲覧場所：教育学部係（全学講義棟1号館1階 学生センター内）

時間：平日9:00～16:30

⑥ 現役院生の言葉

教科教育高度化プログラム 生活創造系教育サブプログラム（家庭）

1年 棚澤飛鳥さん



埼玉大学教職大学院説明会

生活創造SP 家庭
棚澤 飛鳥



アウトライン

01

自己紹介

02

大学院進学に至った経緯

03

どんなことを学んでいるのか

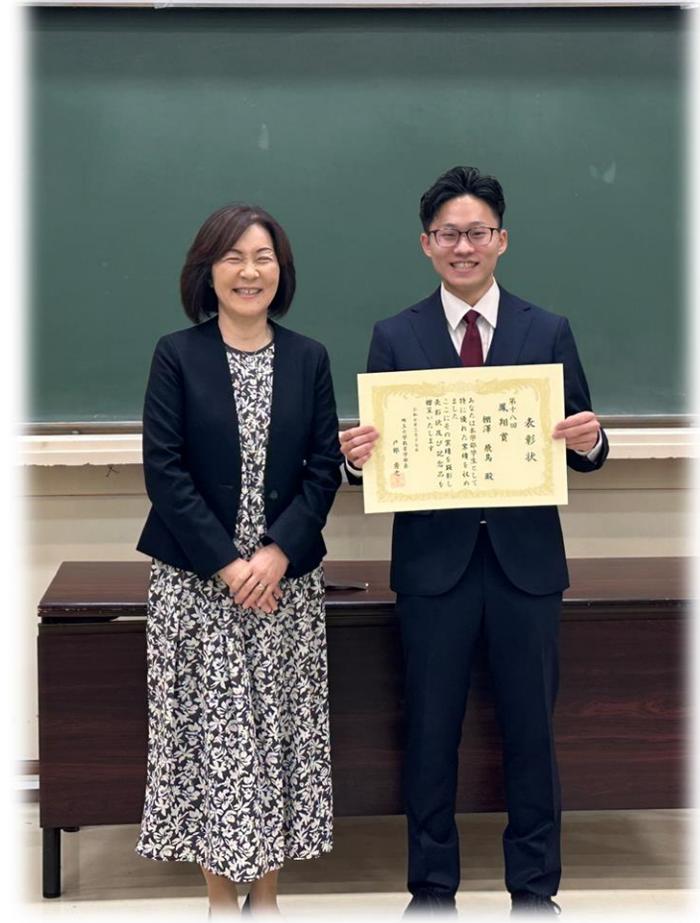
04

結びに

自己紹介

玉大学教育学部鳳翔賞授

- 埼玉大学教育学研究科 生活創造SP家庭
- 令和7年度埼玉県教員採用選考試験
中学校等教員 採用
- 所有免許：中学校家庭一種、技術二種
高校家庭一種
- 一般入試（第2期）で大学院を受験



NEXT

01

自己紹介

02

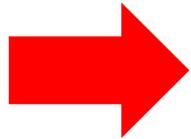
大学院進学に至った経緯

03

どんなことを学んでいるのか

04

結びに



大学院進学に至った経緯

大学院に行きたいと思っていたが...

しかし、大学の教授らの勧めにより
両親に内緒で大学院を受験し合格

両親の反対

教員を複数年経験後
大学院に戻ることに...



金銭的な問題について

日本学生支援機構 -教員になったものに対する 奨学金の返還免除制度-

大学院在籍時に貸与を受けた
第一種奨学金

条件を全て満たした場合...

全額返還免除

ご存知ですか？
教師になった方に対する
奨学金の返還免除制度
2024年度から
スタートします！

対象者

大学院において、第一種奨学金の貸与を受けた学生で、教員採用選考等に合格し、在籍している大学院の分類ごとに定められた以下の条件を満たす方^(※1)

教職大学院に在籍している場合	教職大学院以外の大学院に在籍している場合
<ul style="list-style-type: none">・教員採用選考等^(※2)に合格・教職大学院修了の翌年度から正規教員として採用予定^(※4)・翌年度（4月1日時点）に正規教員として在職している^(※4) のすべてを満たす方	<ul style="list-style-type: none">・教員採用選考等^(※2)に合格・大学院修了の翌年度から正規教員として採用予定^(※3)^(※4)・翌年度（4月1日時点）に正規教員として在職している^(※4)・大学院において教職課程を履修し専修免許状を取得^(※5)・大学院において教職課程に位置付けられている一定の時間以上の「学校等での実習」を内容とする科目の単位を取得^(※6) のすべてを満たす方

※1 貸与期間中に特に優れた業績を挙げたと認められる必要がありますので、詳細について裏面を必ず参照してください。
※2 公立学校の教員採用選考だけでなく、国・私立学校等に採用された方も含まれます。対象となる学校種は、幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、幼児連携認定こども園です。
※3 修士課程、博士前期課程、専門職学位課程が対象です。
※4 正規教員として採用内定を得て、大学院修了の翌年度から入籍する方が対象です。既に教員採用選考等に合格し、大学院修了まで採用延期制度等により在籍する方も対象となります。臨時的任用の方や非常勤講師は対象となりません。
※5 採用選考等に当たり特別免許状の授与を受ける場合も含まれます。
※6 履修する授業科目が奨学金の返還免除の対象となるかについては、在籍する大学院にお問い合わせください。

返還免除の対象になる奨学金

大学院在籍時に貸与を受けた第一種奨学金
(授業料後払い制度も含む)

条件を全て満たした対象者は、**全額返還免除**となります

※次の奨学金は、奨学金返還免除の対象外です。 ■ 大学院在籍時の第二種奨学金 ■ 大学院在籍時の奨学金

申請スケジュール

概ね以下のとおりです。申請手続きの詳細については、在籍する大学院の案内に従ってください。

2025年3月 修了予定者 の場合	2024年12月頃～ 「特に優れた業績による返還免除制度」への申請 (申請に当たっては教員採用されることを示す合格通知書等の提出が必要)	2025年4月頃 2025年4月1日時点で 教師として入職したことを 示す在職証明書等を 大学に提出	2025年7月頃～ 日本学生支援機構に おける返還免除者の 決定・結果通知
-------------------------	--	--	--

NEXT

01

自己紹介

02

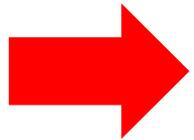
大学院進学に至った経緯

03

どんなことを学んでいるのか

04

結びに



大学院での学び

現在（1年次の前期）で学んでいること

- 教育経営
- 生徒指導
- 教科指導、課程
- 教育相談
- 教育課程
- 専門科目（家庭科）

これらに関連する現状や課題について
グループディスカッションなどを通じ、共有して学びを深める

例えば...

教育課程の課題探究

学習指導要領やカリキュラムマネジメント、各学校の特色ある取り組みについて学び、最終的に、**新しい学校づくり**を自分たちで考えてみて、構想する。

課題探究 I

自分の専門科目や内容について教授や同期との話し合い等を通じて、新たな知見を得たり、自身の研究の内容を**さらに深掘り**したりしていく。

NEXT

01

自己紹介

02

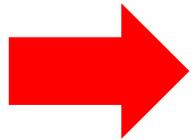
大学院進学に至った経緯

03

どんなことを学んでいるのか

04

結びに



結びに

大学院で学ぶことの魅力と意義

⑥ 現役院生の言葉

教科教育高度化プログラム
自然科学系教育サブプログラム（算数・数学）

2年 宮武昌杜さん





埼玉大学教職大学院 説明会

現役院生(2年生)の話

2025年6月20日

自然科学系教育SP(算数・数学)

24AF302 宮武昌杜



Saitama University
埼玉大学

目次

- 01 私が進学した理由
- 02 教職大学院のよさ
- 03 進学してよかったこと
- 04 最後に



私が進学した理由

学部生時代の 不勉強

不完全燃焼の学部時代

入学時に新型コロナウイルスが流行し、満足に授業を受けることができず・・・。

先輩からの 影響

研究室の先輩

院生として学会に出たり教育について学んだりする先輩方の姿を見てきた。

教員採用試験

まさかの不合格...

教師になるにあたって足りないが多すぎると痛感・・・。

もっと教育の勉強をしようと思い、教職大学院へ

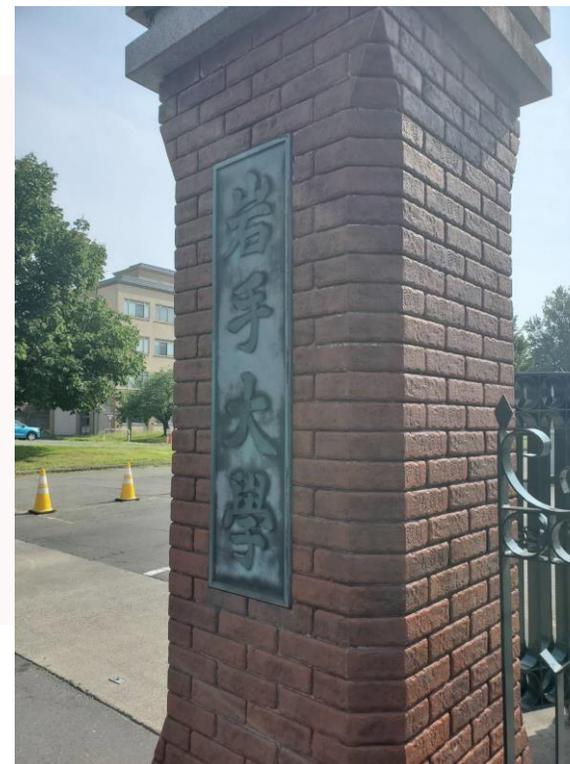


教職大学院のよさ



研究や勉強に邁進できる環境

先生方や教室など、学部生の頃よりも充実した環境で学ぶことができる。



★ 教職大学院のよさ



実地研究で実践的な経験も積める

教育実習とは違い「教員免許を持っている学生」としてより深い実習ができる。



✦ 進学してよかったこと



教育について考える時間が増える

教員志望の同期や現職の先生方...
授業での討論や何気ない会話など
非常に多くの刺激をもらっています！



✦ 進学してよかったこと



一生の仲間！！！！

とにかく「人」が魅力的！
この中のほとんどが教員志望or
現役の教員。
→「将来の同僚」となるかも？





最後に

- ・教育についてもう少し勉強したい
- ・まだ学校現場に行くのが不安である

是非、教職大学院で教員としての力を身に付けましょう！





Saitama University
埼玉大学

ありがとうございました

皆さんにとって貴重な2年間に
なることを祈っています

⑦ 質疑応答

- ・Zoom参加の方はチャットにて質問内容をお送りください。

